

平成25年11月27日

貴重資料「石山寺本『玄応一切経音義』」を購入しました**[研究機能]**

広島大学では、石山寺本『玄応一切経音義』巻第十を、新たに購入しました。

中国唐代（7世紀）に玄応が撰述した経文漢字についての音義書『一切経音義』全二十五巻は、仏典に見られる難解な語句の読み（音）や意味（義）を記した辞書で、唐代初期の音が反映されていることから、特に、「切韻」の音韻体系を伝えるものとして中国言語学（音韻学）で重視されているものです。意味の記述のために引用される『説文』『玉篇』『漢書』『後漢書』などの多くの逸文も貴重であり、また、日本の古辞書『新撰字鏡』『類聚名義抄』などの主要出典であることから、仏教学に限らず国語学においても早くから研究されてきた資料です。

石山寺本『玄応一切経音義』は、12世紀末期に写経され、その後石山寺（滋賀県）に受け継がれていたもので、唐代からその間に現存する写本も少なく、また玄応が撰述した原本に近いテキストを伝えている貴重な写本です。

石山寺本は、本来全二十五巻が完存していたと推定されていますが、全巻揃ってはならず、広島大学に四巻、天理大学附属天理図書館に一巻、大東急記念文庫に一巻、京都大学大学院文学研究科図書館に二巻と、全部で八巻のみ現存していることが知られていました。

そこに、巻第十が発見され、このたび広島大学が入手することができました。現存わずか全九巻のうち、広島大学が五巻を保有することとなり、今後、古辞書・音義・一切経研究の拠点となることが期待されます。

【お問い合わせ先】

学術・社会産学連携室
図書学術情報整備グループ 松本 秀毅
TEL:082-424-6206 FAX:082-424-6211